

遷延性意識障害患者のヒヤリハット報告

Minor skin lesions in PVS patients

- Analysis of incident reports -

小嶋 昌子、河野 奈央美、小塚 智昌、佐藤 弘子、吉沢 純子  
自動車事故対策機構 千葉療護センター 看護部

Masako Kojima, Naomi Kawano, Tomoyosi Kozuka, Hiroko Satou, Jyunko Yosizawa  
Nursing Department Chiba Ryougo Center, Chiba, Japan

【はじめに】一般的にリスクマネジメントは、医療現場における事故防止に組織的に取り組み、医療の質を保証することを目指すとされている。遷延性意識障害患者は、自ら訴えられず、危険を回避することもできないため、看護ケアは細心の配慮を要する。千葉療護センター（以下センターと略す）では事故防止委員会で事故・ヒヤリハット報告の分析を行い、事故防止と医療の質向上をめざしている。リハビリテーションの目的を達成するためには小さな傷や内出血は仕方ないと考えられることもある。しかし、患者にとっては小さな傷でも活動制限や、褥瘡に移行することもあるため、リスクとなる。又、ヒヤッとした小さな事故が思いがけない大きな事故に繋がることもある。そこで、今回、「皮膚損傷」に関するヒヤリハットの分析と対策を検討した。【方法】センター入院患者約70名、1年間の皮膚損傷報告の分析【結果】皮膚損傷の報告件数は397件（全体の58.6%）であった。傷の内容は表皮剥離、切り傷、擦過傷、内出血、発赤、斑、びらん、水疱などがあつた。患者の状態からまとめると、活動性が高く自動運動範囲が広い事例、筋緊張が高い事例に多い傾向であつた。ケアの場面では車椅子や浴槽担架の移乗、更衣、テープやチューブ類の接触、が多く、又不明の報告も多くあつた。患者と看護師の爪の問題も挙げられる。【結論】遷延性意識障害患者はその異常姿勢により皮膚損傷を生じやすい。又、自ら訴えられないので小さな傷は医療者自身が報告しなければ、わからない。従って、どのような小さな皮膚損傷でも報告することが大きな事故防止になると共に患者ケアの質の向上にも繋がる。